椰子の樹

ポオル・クロオデル　Paul Claudel

上田敏訳

青空文庫

われらが故里の國の樹木は、すべて人間のやうに直立してゐて、しかも不動である。其根を土に突込んで、腕を廣げたままでゐる。ここはさうでない。靈木榕樹は單獨に聳えたつのではなく、多くの絲を吊下げて、地の胸を撫探し、宛も自ら築きたつ殿堂のやうだ。しかしこれから椰子の樹のことを語らう。

この樹には枝が無い、幹の頂上に椰子の葉の房を翳してゐる。

椰子の葉は勝利の章、中空高く、梢の敷桁となつて、光明の中に搖動きつつ廣がり、しかも其自由の重みに項垂れる。極熱の日の、長い眞晝時、椰子はあまりの幸福に恍惚として、その葉の簇を開き別けつつ、四方に離れ支れる所、幼兒の頭蓋をさながらに大きな青い頭のやうに、椰子の實は列んで載つてゐる。椰子の樹はかうして其心底を示すのである。椰子の下葉は、精一杯に開いて、項垂れがちである、中の葉は前後左右、出來得るかぎり、支れてゐる。梢の葉は高く聳えて、手の置處に困る者の如く、又は降伏を示す人のやうに、たゞゆるゆると手眞似をしてゐる。幹は硬直の木質で出來上つてゐるのではない、環紋の材である。嫋やかな、丈長草のやうにいつも地の夢のままになつて、すなほに靡く。中天の日に向つて聳える時も、或は瀬の早い泥水の河岸、はたまた海と空との上に、あの度外れて大きな房を傾ける時も。

夜、濱傳ひを歸り來れば、西南の時風にはたかれて進む獅子のやうな印度洋の怒濤が、恐しい泡沫を磯際にぶつけてゐる。小船や動物の骸骨の如く椰子の枝葉が散らばつてゐる水際を歩

いて行くと、弓手(ゆんで)の方に眼に入るものは、薄暮の天を斜に匍匐する大蜘蛛のやうに、薄暗い空の下、葉の無い森の上を動いて、いかにも清い光に濕つて、水の上に長く影を曳いてゐる太白星である。その時一もとの椰子の樹が、戀慕に惱む者の如く、海と星とに、なだれかかつて、おのが心を空の火に近づけようとしてゐる。われここを去つて、復(また)、歸り來る時、たしかにこの夜を思ひ起すであらう。椰子の樹の長髪が眼に殘つてゐる。森の周柱を透いて見える天には、海をふまへた大暴風が、山の如くむくむくと立上つてゐた。足元近くまた大洋の蒼白い色を見た。

噫、錫崙(セイラン)、われ汝を思ふ、汝の木の葉、芒果(マング)の肉の色をした汝の道を裸形にて通ふ眼優(まなこ)しい汝が民よ、われ病を獲て、涙ぐましく、汝が曇りがちの空の下に肉桂の葉を噛みつつ、搖られゆく時、侍者がわが膝に載せてくれた淡紅の花よ。

青空文庫情報

底本：「上田敏全訳詩集」岩波文庫、岩波書店
1962（昭和37）年12月16日第1刷発行
2010（平成22）年4月21日第38刷改版発行
初出：「芸文　四ノ八」
1913（大正2）年8月
入力：川山隆
校正：成宮佐知子
2012年11月2日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

椰子の樹

ポオル・クロオデル　Paul Claudel

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

著者　　上田敏訳
URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/